

～フットパス上頓野コース～

フットパスB班

4組	13番	中川	侑大
	17番	吉田	尚希
	29番	末延	美鈴
	31番	田村	優衣
	34番	藤川	夏海
	35番	升野	寿音

1. 現状

上頓野には若い人が少なく、魅力的なお店や自然があるにもかかわらず知られていない。人口は2010年には3400人、2017年には3189人と人口は減少しており、世帯数の割合は65歳以上の世帯員のいる世帯が全体の54%を占めている。このことから親はそのまま地元に残っているが、子供は就職や進学のため、県外など上頓野から出て行っていると考えられる。今後、上頓野の良さをより多くの人に知ってもらい、若い人が増え市外や県外からたくさんの人に来てもらえる活気あふれる場所にするべきだ。

2. 背景

上頓野の背景としてまず、働く場がない、周りに若い人が少ない、都会への憧れから生産年齢人口が少ないことがわかる。次に、公共交通機関が少ないこと、PR不足であることから魅力的な店が知られていない。また、上頓野の自然の良さを生かしたイベントが行われておらず、自然に触れる機会がないため知られていない。ガードレールが少なく、あまり信号がないため、様々な状況の人に対応していない。実際班員で上頓野を歩いてみたときに分かったことはお店がたくさんあるにも関わらず、あまり活気がないということである。しかし、カフェなど若い人向けのお店や駄菓子屋など子どもが楽しめる場所もあったりするなど立ち寄りたくなるお店がたくさん見られた。また自然がとても感じられ、空気もきれいで都会では感じるようなことがたくさんあった。

3. 提案

ここで老若男女、国籍問わず楽しめる、地域の良さを活かしたフットパスコースを提案する。また、私たちは11月の体験ツアーを通して地域の人たちがフットパスにかけている想いを実感し、自分たちも地域の良さを最大限に生かしたコース作成をすることにした。このコースの見どころは大きく分けて4つある。1つ目は春には桜、夏にはきれいな新緑、秋には紅葉、冬には雪山景色といった、季節によって違った景色を楽しむことができるというこ

と、2つ目は都会では見られない光景が見られること、3つ目は子どもも遊べるスポットがあること、4つ目は歴史を感じられる建物があるということだ。

まず、上頓野の良さがたくさんつまったマップを作成する。マップの内容は自分たちの歩くフットパスコースにあるオススメの店や景色の良いところなどの店の情報なども記載して、歩いた人が次来たときに来やすいようにする。英語での記載もする。このマップをつくることで、またもう一度来たいという人もマップを頼ることができるので、フットパス以外でも上頓野に足を運んでもらえる。また、インスタグラムを活用して、フットパスコースを歩いた中で撮れた風景などの写真を実際に歩いてもらった人に載せてもらう。その際に#フットパス上頓野コースでタグをつけてもらい、色んな人が見られるようにする。SNS は若い人をはじめ、たくさんの人が利用するので県外の人にも興味をもってもらえる。

4. 詳細

このコースの詳細について、まず集合場所は和田公園である。ここの公園には桜の木があるので春には桜を楽しむことができる。そこから少し歩くと光明寺が見える。この寺は正式名所を『遍照山 称名院 光明寺』という。この寺は平安時代、唐の国に留学していた最澄が帰ってきたときに立ち寄り、薬師如来像を建てたのがこの寺の始まりとされている。光明寺の裏山をマンジウ山といい、平安時代の武将である多田満仲を供養する石塔が残っている。また、多田満仲は瀬戸内海の島を本拠地として1500隻の船を率いて海賊の頭となり大宰府にあった国の役所を襲い、筑前の国を占領した藤原純友の兵を追い払ったことで、純友の兵に苦しめられていた住民からとても感謝されたと言われている。このお寺が造られた最初のころは天台宗のお寺だったが、1573～91年に戦いがあったときに一部の建物を残して焼けてしまった。そのあと、江戸時代の初め、念譽文宗上人(ねんよもんそうしょうにん)というお坊さんが阿弥陀仏の像を作り、舌間与右衛門宗善(したまよえもんそうぜん)という人がお金をだして立て直し、浄土宗のお寺となった。たくさん歴史が残った神社である。次に立ち寄るのは山のおちゃやさんである。ここは地元の人に愛されるお店で、たくさんの種類の美味しいお茶やボリュウムたっぷりのソフトクリーム(バニラ、抹茶、ダッタンそば)、大福などが置いてある。そのほかに八女特産品コーナー、陶器コーナー、駄菓子屋コーナーがあり、子どもから大人まで楽しむことができる。また外の休憩スペースからは福智山をのぞむことができ、心地よい風が吹いてとても穏やかな気持ちになる。ちなみに、この福智山は直方市内の学校の校歌に歌われている市内の景色第2位であることから、直方を象徴する山といえる。少し休憩して次に向かうのは、雲取山桜である。この桜の木に向かうまでの道に見える自然がこのスポットの最大の見どころである。田んぼ道を歩いていると見えてくる向こう側にそびえたつ山々が、季節ごとに色を変え楽しませてくれる。次に池が見えてくる。この池の向こう側には森林が茂り、その森林が池に映ってとても幻想的な雰囲気を楽しむことができる。また、雲取山桜へ向かっていくにつれて、先ほどまで遠くに見えていた山々が少しずつ近づいてくるので自然

をより肌で感じることができるだろう。

山道を登り、少し疲れてきたところで雲取山桜に辿り着く。その桜の木は樹齢約400年のエドヒガンの桜の大木である。エドヒガンは樹高15～25m、名前の通り春の彼岸ごろにきれいなピンク色の桜が咲き、歩いた疲れも吹き飛ばすほどの迫力と澄んだ空気を味わうことができる。心が癒されたところで、次に向かうのは八幡神社である。大きな鳥居が出迎えてくれるこの神社は今から約700年前、麻生出羽守遠長によって建てられたと言われている。また、ここにおかれている供鐘は福岡県指定文化財である。この供鐘は1509年以降『雨乞いの鐘』と呼ばれるようになり、白布をかぶせて竜王峡の滝つぼに沈めたというならわしがあったと伝えられている。この鐘が地域の人々を支えていたというとても歴史を感じるすることができる供鐘がこの神社の1番のポイントである。

このコースの最後の見どころは戦国時代の大きな集落跡、宮ノ前遺跡である。その時代、その地域を治めていたと言われている麻生氏と深く関係したと伝えられている。周囲三方を山に囲まれた谷部に位置し、西側が開けている。容易に防衛施設として使用できる環境になっていて、周囲に柵を巡らせた領主居館であり、雲取城主が日常居住していたと考えられている。建物として残っていないため歴史を感じることが難しいかもしれないが、今は何もなく人も住んでいないこの地にたくさんの人が住んでいたという歴史の移り変わりを感じるすることができる。また、このコースを歩く中で『四国札所(しこくふだしょ)』という札がかかった小さなお墓が4つある。これは四国八十八か所と呼ばれる、四国をはじめとした全国に88ヶ所ある弘法大師空海のお墓である。815年弘法大師の開創といわれ、それらの中には弘法大師と直接ゆかりのある寺や足跡を残したところも少なくないが、実際には平安中期以後、弘法大師信仰が盛んになってから、霊場と定められたものが多い。この四国札所はすぐ見つかるような場所にあるものもあれば、少し分かりにくい場所にあるものもあるので、それを探しながら歩くのも楽しみ方の1つである。この上頓野の地に空海と最澄という有名な歴史的な人物に関わりがあるというのもとても興味深い。自分たちで実際にこのコースを歩いてみると、ゆっくり歩くことで見える新しい景色を発見できた。こんなに自然を肌で感じたことがないくらいの自然を間近で見ることができて、心がとても癒された。また、地域の人たちと実際に話してみることで地域の人たちの優しさを感じた。

このコースは距離5km、所要時間は約2時間である。準備するものはマップ、帽子、水分、タオル、動きやすい服装。スタート地点は和田公園で、ゴール地点は竜王狭である。私たちが作成したコースによって、上頓野の知られていない魅力をたくさんの人に知ってもらえることや、四季を楽しめるため自然を感じるができるので、都会から来た普段自然を感じるができない人がまた来ようと思える。SNSを用いた宣伝でより多くの人たちに上頓野の存在や魅力を伝えることができる。また、SNSは誰でも見ることができるので遠方からでも来ようとする人が増える。山のおちゃやさんなど気軽に立ち寄れる店が多いので、休憩やお土産で商品を買う人によって経済効果が生まれる。そして、こもりがちな

お年寄りなど地域の人を外に出せる。

5. 未解決問題

未解決問題としては、ガードレールが少ないことがまずあげられる。比較的車の通りは少ないが小さい子どもなどには少し危険である。次に坂道が多いのでお年寄りなど足腰が悪い人たちの負担になる。また、出発地点である和田公園の場所が複雑であるため、電車やバスなどを使って遠くから来る人は分かりにくい。そのほかにも帰りの交通網(時間・場所)が分かりにくいこと、トイレが少ないこと、街灯が少ないことがあげられる。出発地点などの問題は自分たちが案内したりするなどの解決策をとることができるが、それ以外の問題は自分たちで解決するのは難しい。

6. スケジュールと役割分担

1年間を通して、まず7月に1回目のフィールドワークで竜王峡付近を散策した。(班員全員)2回目は8月に行いだいたいコース確認(班員全員)、3回目11月のフィールドワークではコースの最終確認(班員全員)、そして4回目12月のフィールドワークでは、神社などでの聞き取り調査を行った。(田村、藤川、升野)10月からパワーポイントの作成(田村、吉田)、11月からレポートの作成を始めた。(升野、末延)